

科目名	世界政治学 (国際政治学) I	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)
			経済学科 □必修 ■選択 学科 □必修 □選択
英文表記	International politics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年
ふりがな	いし かわ たけ いち	開講期間	■前期 □後期 □通年 □集中
担当者名	石 川 竹 一	修得単位	2単位
授業のテーマ	現代に生きている西洋政治思想から世界 (国際) 政治の現実を解き明かす。		
授業概要	現在の世界 (国際) 政治の枠組みは、西洋の政治思想を源流としている為、政治思想とその思想が生まれた背景を知ることには、現代の世界 (国際) 政治を深く知る上で必要である。西洋で生まれ現在に生きている政治学説を学び、その学習の基礎の上に立って、世界 (国際) 政治が過去どのような歩みを示し、地理、経済、社会、文化の背景の下で現在の形になったのか、更に世界 (国際) 政治はどの方向に進んでいくのかを学び、その中で君はどう生きていくのかを考える。		
到達目標	世界 (国際) 政治を理解する力を涵養するので、日々世界で起きている世界 (国際) 政治の実態が理解できるようになる。		
授業時間外学習	毎日、新聞の一面を読んでおく。教科書の該当箇所を読んで、専門用語の意味等を理解しておくこと。前回講義に関する確認テストを行うので、しっかりと復習しておくこと。		
履修条件	私語は他の学生の迷惑になるので認めない。世界 (国際) 政治の実像を理解しようとする意欲。		
授業計画			
第1回	国際政治のあゆみ		
第2回	主権国家の誕生、判例研究：コソボ独立宣言事件		
第3回	ナショナリズムと帝国主義の時代		
第4回	第一次世界大戦、判例研究：ドイツ・オーストリア関税同盟事件		
第5回	第二次世界大戦		
第6回	冷戦、判例研究：旧ユーゴスラビア仲裁委員会		
第7回	国際政治の見方		
第8回	パワーと国益、判例研究：黒海境界確定事件		
第9回	対立と協調		
第10回	支配と従属、判例研究：ピノチェット事件		
第11回	規範と制度		
第12回	安全保障、判例研究：ハムダン事件		
第13回	国際政治経済、判例研究：マフェチニ事件		
第14回	国際政治における文化		
第15回	まとめ		
第16回	定期試験		
テキスト	国際政治学をつかむ、有斐閣、村田晃嗣他、2016		
参考文献・資料	平和政策 (有斐閣、大芝亮、2006)、西洋政治思想史 (佐々木毅、北樹出版、2009)		
成績評価の方法	課題読書のサマリーレポート10%、研究レポート10%、クイズ20%、試験30%、平常点30%		
成績評価基準	1・2・3年生：秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 4年生：優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)、出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。		
オフィスアワー	金曜日13時~14時30分、金曜日16時20分~17時50分		
学生へのメッセージ	西洋政治思想から現代の世界 (国際) 政治を読み解くことによって現代の世界 (国際) 政治とその中の自己とが理解できるようになります。自己を知る為の世界 (国際) 政治学学習。		

科目名	世界政治学 (国際政治学) II	科目分類	■専門科目群 (第1グループ) □総合科目群 (第2グループ)	
			経済学科	□必修 ■選択
			学科	□必修 □選択
英文表記	International politics	開講年次	■1年 □2年 □3年 □4年	
りがな	いしかわ たけいち	開講期間	□前期 ■後期 □通年 □集中	
担当者名	石川 竹一	修得単位	2単位	
授業のテーマ	世界(国際)政治の実態と分析。			
授業概要	国際政治が過去どのような歩みを示し、地理、経済、社会、文化の背景の下で現在の形になったのだろうか。国際政治の現実を理解・分析する。第二次世界大戦が勃発した時、経済の発展が図られなければ、平和は維持できないことを世界は悟り、その結果構築されたのが国際連合とブレトンウッズ体制である。この世界政治の中核的枠組みを理解し、この国際行政の枠組みが社会、企業、家庭、個人にどのように影響しているかを分析する力を涵養する。			
到達目標	国際政治を理解する力を涵養することを目標とするので、日々世界で起きている世界政治の実態が理解できるようになる。国際政治は今後どの方向に進んでいくかを学び、その中で個人はどう生きていくかを考える。			
授業時間外の学習	毎日、新聞の一面を読んでおく。教科書の該当箇所を読んで、日々専門用語等を理解しておくこと。前回講義に関する確認テストを行うので、しっかりと復習しておくこと。			
履修条件	世界政治学Iを学んでおくことが望ましい。授業中私語は認めない。世界(国際)政治の実態を理解しようとする意欲。			
授業計画				
第1回	国際政治のしくみ、政治体制			
第2回	対外政策決定過程			
第3回	外交交渉、判例研究：マヴロマティス・バレストライン事件			
第4回	国連の役割、判例研究：レインボー・ウォーリア号事件			
第5回	地域主義			
第6回	脱国家的主体			
第7回	国際政治の課題、核			
第8回	新しい戦争、判例研究：アカイエス事件			
第9回	国連PKO,人道的介入、平和構築			
第10回	人権と民主主義、判例研究：バングラディッシュ人難民不認定取り消し事件			
第11回	グローバリゼーション、判例研究：サルカ事件			
第12回	開発援助、判例研究：鉄ライン事件			
第13回	地球環境問題、判例研究：パルプミル事件			
第14回	科学技術とエネルギー			
第15回	さらに国際政治学を学ぶために			
第16回	定期試験			
テキスト	国際政治学をつかむ、村田晃嗣他、有斐閣、2016			
参考文献・資料	平和政策(有斐閣、大芝亮、2006)、人類の議会(日本経済新聞社、ポール・ケネディ、2007)			
成績評価の方法	課題読書のサマリーレポート10%、研究レポート10%、クイズ20%、試験30%、平常点30%			
成績評価基準	1・2・3年生：秀(100~90点)、優(89~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下) 4年生：優(100~80点)、良(79~70点)、可(69~60点)、不可(59点以下)、出席回数が規定に満たない場合は試験をうけることができません。			
オフィスアワー	金曜日13時~14時30分、金曜日16時20分~17時50分			
学生へのメッセージ	世界(国際)政治の中核的枠組みを体験的に学習することによって、世界(国際)政治学の視点が身につく、世界の現状と動向を自らの目で捉えることができるようになる。			